



- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさとを拓く子ども



令和6年度 卒業証書授与式挙行



【ステージで立派な姿を披露した6年生】

3月12日(水)、10名の卒業生が巣立ちました。これまでの卒業生のがんばりに感謝するとともに、中学校でも目標をしっかりと見据えて、努力し続けてほしいと願っています。保護者の皆様にも、これまでご支援・ご協力いただいたことを感謝申し上げます。
在校生も感謝の気持ちをもって臨み、とても心温まる卒業証書授与式となりました。



【在校生も呼びかけや歌をがんばりました】



【学級でも別れを惜しみました】



【たくさんの来賓・保護者の皆様が祝福】



【盛大に見送りました】



お世話になった6年生のために...

気持ちよく送り出せるよう、全校で掃除や会場準備をがんばりました!!

学期末ピカピカ週間

きれいな校舎で6年生を送り出すことができました!



児童玄関



体育館



6年教室

卒業式会場準備

協力して、6年生に最高の場を準備することができました!





今週の一枚

3月4日(火)、初任者の藤田美空先生の指導教員、佐藤俊之先生の最後の勤務日でした。
お世話になった2年生が感謝の手紙を渡しました。昨年度から引き続き、2年間お世話になりました。ありがとうございます。

デジタル化は「進化」?



今年度も子どもたちの自学を、曜日ごとに学年を変えて見てきました。6年生最後の自学提出日となった3月7日には、それぞれのノートの余白に感謝のメッセージが書かれていました。どれも心温かくなるメッセージばかりで、いつも気の利いた助言も書けずいた私は、すっかり恐縮してしまいました。

手書きの文字は、「自分のために時間をかけて書いてくれた」という特別感があり、嬉しい思いにしてくれます。また、手書きの文字には、上手い下手ではない、書いた人の個性があります。

これまでの教員生活で児童生徒からもらった手紙を、時折開いて見てみると、その児童生徒の人となりや当時の思い出がよみがえり、懐かしい気持ちになります。

だから、もって嬉しいのは、タイピングされた文字より手書きの文字とってよいでしょう。

先日、デンマークでは、2025年末で国内での手紙の配達を廃止するというニュースを耳にしました。デジタル化の発達で手紙の取り扱いが激減したことが理由だそうです。

デジタル化の発達は、私たちの生活を便利にしてくれているのは間違いありませんが、一方で人間関係の希薄化などの問題も引き起こしています。

それを人間の「進化」と捉えるべきなのか、いくら考えても明確な答えは出せません。となれば、その答えは未来に求めるべきなのでしょう。